

事例9

< 事例概要 >

出血

- ① 60 歳代、糖尿病性腎症、慢性腎不全で血液透析中。不安定狭心症に対して経皮的冠動脈 形成術後約1 か月の患者。
- ② カテーテル感染のため、血液浄化用カテーテルを入れ替え予定。
- ③ BMI 22.2 kg/m²。抗血小板薬2 剤の服用（休薬の有無不明）。
- ④ 右内頸静脈より透視とリアルタイム超音波ガイド下で穿刺。長針を使用し穿刺したが拍動性の逆血あり。透視下でガイドワイヤーの位置を確認し、静脈内と判断しカテーテルを挿入。その後、血液ガス分析、造影CT で右鎖骨下動脈から腕頭動脈への迷入が判明。心臓血管外科による右鎖骨下動脈損傷部の血管内治療後にカテーテルを抜去。2 日後、意識レベル低下し、MRI で急性脳梗塞と診断。胸部CT で両側胸水の増加を認め、撮影されている範囲で上腹部の腹水と左後腹膜の血液貯留（疑い）を認め、抜去から4 日後に死亡。
- ⑤ 死因は、後腹膜出血による出血性ショック（疑い：出血源不明）、あるいは、新たな脳梗塞による呼吸停止（疑い）。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。